

天平五年、入唐使に贈る歌一首 并せて  
短歌

四二四五番

そらみつ 大和の国 あをによし 奈良の都ゆ  
おしてる 難波に下り 住吉の 三津に舟乗り  
直渡り 日の入る国に 遣はさる 我が背の君を  
かけまくの ゆゆし恐き 住吉の 我が大御神  
舟舳に 領きいまし 舟艫に み立たしまして  
さし寄らむ 磯の崎崎 漕ぎ泊てむ 泊まり泊ま  
りに 荒き風 波にあはせず 平けく 率て帰  
りませ もとの朝廷に

反歌一首

四二四六番

沖つ波 辺波な越しそ 君が舟 漕ぎ帰り来て  
津に泊つるまで